

地域おこし協力隊 卒業報告



やました こうへい
山下 晃平 さん

札幌市出身28歳。
弘前大学教育学部卒業後、民間企業を経て2016年2月に着任、休屋地区担当となる。十和田湖観光交流センター「ぶらっと」を拠点に活動。



市では、自然環境や地域文化など、地域資源を生かした観光の振興や地域力の向上のため、地域づくり活動に意欲のある人材を受け入れる「十和田市地域おこし協力隊」の隊員を委嘱しています。

今号では、3年間の任期終了を目前に控えた休屋地区の山下隊員に取り組みの足跡を振り返っていただきました。

中学校の修学旅行以来2度目となる十和田湖。

休屋地区の地域おこし協力隊として十和田湖畔地区に移住し、早くも3年の任期が終了します。

振り返ると、さまざまなイベントに携わらせていただき、皆さんの協力で、新たな活動が生まれ、進んでいく日々を過ごすことができました。本当にありがとうございます。

― 霊山十和田

最も力を注いだ活動の一つは、十和田湖の隠れた歴史資源「霊山十和田」に光を当てた歴史事業です。霊山としての十和田湖を改めて学びたいという「十和田湖自然ガイドクラブ」さんとの会話がきっかけとなり、共に調査・研究を進めてきました。

弘前大学名誉教授の斉藤利男先生にも事業開始当初から全面的にご支援をいただき、十和田湖畔での研究会「十和田湖伝説の伝え方を考える会」を立ち上げることができました。そして室町時代の元祖十和田湖伝説の現代語訳を行い、更に初めてのガイド

ブックとなる「霊山十和田―忘れられたもうひとつの十和田湖―」の出版にまでたどり着くことができました。

まだまだ磨き上げが可能な発展性を秘めた事業であり、今後も調査・研究を続けていこうと思えます。



霊山十和田
―忘れられたもうひとつの十和田湖―



十和田湖伝説の伝え方を考える会

― ガイド活動

二つ目はガイド活動です。地域おこし協力隊として、さまざまなガイドツアーを企画し、実証実験を行ったほか、プライベートでも休屋の散策ガイドの実施やカヌーガイドの訓練などに参加し、直接魅力伝える力を磨きました。

霊山十和田の歴史をはじめ、地域の魅力を伝えるガイド活動は、観光地域づくりの重要なツールであると感じています。



スノーシューガイドの様子

― 十和田湖ウォーク

三つ目としてイベント支援があります。特に39年もの間、ウォーキング愛好家を引き寄せ続けた「十和田湖ウォーク」。この継続を支援した活動は、多くの協力の下で進んでいった印象的な活動です。

2017年には「十和田湖マラソン」「十和田湖ヒルクライム」と連携を行うことで、多くの支援を得て、40回大会の開催へつなぐことができました。2018年は「(一社)十和田湖国立公園協会」が事

務局を担い、「東奥日報社」の支援を受け、「十和田湖ウォーク実行委員会」が設立され、新たなスタートを切りました。



十和田湖ウォーク2017



私の活動は、ほんのきっかけに過ぎず、ム本場に多くの協力があってイベントを動かしていったと感じる活動でした。

あつという間の3年間でしたが、皆さんに温かく迎え、接していただいたおかげで、色濃く充実した日々を送ることができました。本当にありがとうございます。

卒業後も十和田湖畔地区に残り、皆さんの力をお借りしながらですが、地域の活性化に貢献できるよう頑張っていきますので、これからもよろしくお願ひします。